

事業実績書

1 事業名：食のセーフティーネット事業 in かさおか

2 実施期間：平成30年6月1日～平成31年3月31日

3 事業内容：

（1）事業の目的・概要

安全に食べることでできる食品を有効に活用することにより、食品ロスの削減を図るとともに、食品の支援を必要としている人々と『食品』をつなぐ架け橋として、本事業においてより良い循環の構築を行うことにより、助け合い社会の実現をめざす。

食品メーカー・小売業者等、提供企業等に本事業の周知とともに「食品ロス」及び「食品提供」に関するアンケート調査を行うとともに、提供側のネットワークの構築をめざす。

フードバンク活動を広く周知することにより、食品のより良い活用・循環システムは企業・家庭においてごみの減量化にもつながり、環境教育・社会福祉の向上をめざす。

（2）事業内容：

①「フードバンク・フードドライブ活動」の啓発・拡充

ア 広報・啓発用品の制作と配布

フードバンク活動啓発用リーフレット 5,000 枚

フードドライブ広報用チラシ（9月版）3,000 枚、（2月版）5,000 枚

フードドライブ受入れ先周知用のぼり 20 旗

フードドライブ食品用コンテナ 11 個（9か所用）

・リーフレット・チラシ等配布先：

笠岡市環境課・地域福祉課・子育て支援課、笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町各社会福祉協議会、大井児童館・ハーモニーネット未来イベント、笠岡市環境課イベント「芙蓉の花」アンケート調査先（井笠管内各市町・井笠管内各社会福祉協議会・企業・福祉団体）等

・のぼり・コンテナ配布先：

笠岡市環境課・笠岡市社協・井原市社協・浅口市社協・里庄町社協・矢掛町社協・笠岡市大井児童館・ハーモニーネット未来

※コンテナ2個はフードバンク活動用として、おかやまコープ鴨方店と山陽マルナカ笠岡店へ。

イ イベントにおける啓発活動：のぼり旗を立てて、チラシ配布

・笠岡市環境課主催：「芙蓉の花」2018年10月

・シンポジウム：2019年1月（フードドライブを実施して食品を集める）

・笠岡大井児童館祭り（笠岡市）2019年3月（フードドライブを実施して食品を集める）

ウ フードバンクで集まった食品の品質管及び食品のマッチング等を実施

・2018年度に取り扱った食品量（フードドライブを含む）：1.5トン

・2018年度に食品の寄付をいただいた 団体：10団体 個人：41人（延べ75回）

・2018年度に食品を提供した 団体：21団体 個人：32人（延べ119回）

エ フードバンクで集まった食品の活用

子ども食堂やシングル支援のための食事会、ひとり親家庭に必要なに応じて食品を提供するなど活用を広げた。

イベント名	食を通じた多世代のふれあい 日ようびの昼ごはん	ひとり親家庭支援 しんぐるまざあずカフェ	食事交流会(シングル) ぽけっとリンク
開催状況	毎月第4日曜日(7回) 9:30~13:00	毎月 第4日曜日(7回) 10:00~12:00	4回 18:30~
参加者数	190人(大人120人、子ども70人) (シングル家庭親子 32組)		211人 (大人136人、子ども70人) (シングル家庭親子 21組)

②シンポジウムの開催

事業名：地域に根づく 食品ロス削減活動 ～フードバンクがめざす方向～

日時：2019年1月27日(日) 13:00~16:00

会場：笠岡市保健センター ギャラクシーホール(笠岡市十一番町1-3)

内容：

- ・基調講演

演題：「もったいない！食べられるのに、捨てられる」

講師：井出留美さん(食品ロス問題専門家/ジャーナリスト/消費生活アドバイザー)

- ・パネルディスカッション

テーマ：「フードバンクがめざす方向ー地域課題解決のためにー」

- ・参加者：68人

- ・参加者アンケート(回答22件)

参加者アンケートから、シンポジウム全体の満足度が高く(91.2点/100点)、食品ロス削減、フードバンク活動等への意識啓発及び学びにつながったことがわかった。

③供給・需要アンケート調査

ア アンケート調査票の作成：「フードバンクに関するアンケート調査票」を5種類作成

イ アンケート実施期間：2018年11月28日~12月14日

ウ アンケート送付先及び回収率

送付先：市町環境担当課(備中県民局管内)、市町福祉担当課(備中県民局管内)、市町社会福祉協議会(備中県民局管内)、福祉団体(井笠圏域)、食品製造業(井笠圏域)、小売店(井笠圏域) 計187団体

回収数：84団体(44.9%)

エ アンケート結果(※詳細は別紙)

福祉分野においてフードバンクとの連携がかなり進んでいることが把握され、また食品関連事業者の業種間では特にスーパーがフードバンクとの連携している割合が高いことがわかった。食品のニーズに対して、提供されている食品の種類に大きな乖離はみられず、必要としているところに、必要な食品が提供されている状況がうかがえる。一方で、廃棄物担当部局も福祉関連団体も、フード

バンク活動への協力可能なのは広報までという回答が多く、運搬・貯蔵等への協力は難しいと認知されていることが確認された。食品事業者も食品をとりに来てほしいという回答がほとんどで、食品利用側と提供側をつなぐ運搬手法について、より多様な主体からの協力を得る等の方策の検討が求められる。

(4) 成果・効果

- ・啓発用リーフレット、フードドライブ広報用チラシを広く配布することにより「フードバンク活動」の周知ができた。
- ・アンケート調査を通じて、食品メーカー、小売業者等、提供企業等にフードバンク活動を周知することができ、新たに活動に協力してくれる店舗と契約を交わすなど、連携を広げることができた。
- ・井笠圏域 3 市 2 町の全ての社会福祉協議会がフードドライブ活動の受け入れ先として参加することとなりネットワーク構築につながった。
- ・シンポジウムの開催により、その意義と重要性を関係者や一般の方にも普及することができた。
- ・行政や議員からの紹介、また子ども食堂等を通じてシングル家庭等へ食品を提供し、つながりが深まった。生活困窮がこの活動によって解決することはないが、この活動をとおり、他の支援にもつながることができた。

(5) 今後の課題・展開等

- ・フードバンク活動についてまだ周知が十分にされておらず、消費者個人、企業に対し「食品ロス削減」「フードバンク活動への参加・協力」を呼びかける必要がある。
- ・活動を継続するための資金、食品提供者と利用者をつなぐための人的、システム的な体制の整備が喫緊の課題である。

以上の課題から、今後も積極的に活動の啓発等を行い、フードバンク、フードドライブ活動に協力してくれる企業、店舗、団体等を増やすとともに、食品を運ぶボランティアなど市民もまきこんだ活動を広げていきたい。

(6) 県民局と協働した効果及び課題

- ・事業全体またアンケート調査票作成において助言や指導を受け、参考となった。
- ・啓発用品を作成し行政や 3 市 2 町の社会福祉協議会等に配布、連携をすることができた。
- ・シンポジウム等の広報において、フェイスブック等で協働して実施することで、周知、集客につながった。

4 実施状況



社協等へのぼりの設置



ちらしの設置



イベント「芙蓉の花」での啓発活動



日ようびの昼ごはん



シンポジウム「地域に根づく 食品ロス削減活動」